

## 学会活性化の課題 —会長就任にあたって—

(独)理化学研究所バイオリソースセンター・微生物材料開発室  
辨野義己



本年6月に開催された本学会総会において、会長を拝命いたしました。歴代の会長はこれまで、微生物系統保存事業だけでなく、微生物系統分類学また広範な微生物学の分野において多大な成果と実績をもたられておられた方々でした。私は1973年より、理化学研究所にて嫌気性菌および乳酸菌の分類学と生態学に関する研究を開始させていただきました。それらを継続するに十分な環境が与えられてきたと感謝しております。1987年より同所微生物系統保存施設（Japan Collection of Microorganisms : JCM）に異動して、今日に至っております。

本会の前身、微生物株保存連盟は1951年に世界最初の保存機関連盟として設立されました。本会は幅広い分野からの参加のもと、正会員、機関会員、賛助会員から構成されております。本会は、微生物カルチャーコレクションの重要性が叫ばれる中、それを分散させるのではなく、各微生物保存機関の特徴を活かしながら歴史的な活動実績を残し、発展してまいりました。さらに、現在ではバイオリソースセンターとしての機能を有する微生物保存機関とは何かを問われる時代となり、本会が、我が国の微生物保存機関のネットワークのもと、微生物資源に関する研究・開発を積極的に推進させることを期待されています。そのために、会誌「日本微生物資源学会誌」の充実が急務と言えます。会員がどのような情報を望んでいるのかを的確に把握し、原著論文だけではなく系統的な微生物保存事業に必要な情報を掲載することが重要です。そして、そのことが我が国の微生物資源の確保と学術研究の発展に寄与できるものと思います。本年より編集委員会の体制を強化しつつ、本学会誌における様々な情報提供の充実を図りたいと思います。さらに、次年度、発行いたします「JSCCカタログ」は、本会にとりまして、国内微生物保存機関の共同作業の成果といえましょう。新カタログが有効な役割を果たしてくれることを期待しております。

さらに他学会との共同作業によるシンポジウム開催や交流を積極的に推進することが本会の存在のみならず、微生物資源の確保の上でも重要であります。これまでも、学術会議微生物学研究連絡協議会の一員として積極的に微生物資源の確保と学術研究における微生物保存の重要性を各学会に示して参りました。今後もその活動を強化していくとともに、他学会とも協力して微生物資源の円滑な利用・保存・提供を実施する事が肝要です。

本会の中心的役割を担っておりますカルチャーコレクション委員会は微生物保存機関間における情報交換ならびにネットワークの構築に重要な連携を担うことをさらに求められています。本年度の総会でも各機関の活動状況が公表され、活発な情報交換がなされたように思います。

さらに、カルチャーコレクション実務担当者会議は微生物保存事業の課題を具体化する上で、活発な論議と実行を基本として益々発展することを期待しております。

会長就任にあたり、具体的な課題、長期的な課題等にも触れなければならないのですが、今後の取り組みの中でお示しできればと思います。どうぞ、会員各位がお力添えくださいますようお願い申し上げます。